

抗 Rnq1 (*S. cerevisiae*) 抗体, ウサギポリクローナル

62-301 100 µg

保存： 4℃または+20℃で送付、-20℃ で保存。

免疫原： Rnq1 タンパク質 C-末端に相当するペプチド CSQQNNGNQNRV

形状： 1.0 mg/ml in PBS⁻ with 50% glycerol. 0.22 µm filter で滅菌. 他の添加物はない。

精製： 抗血清から Protein A カラムで IgG として精製

反応性： *S. cerevisiae* Rnq1. 他の種についてはテストしてない。

用途： ウェスタンブロッティング (1/1,000). 他の用途は試していない。

背景： グルタミンとアスパラギンに富む **Rnq1 タンパク質**は酵母プリオンタンパク質のひとつである。**Rnq1 タンパク質**の機能はわかっていないが、[*pin*]と呼ばれる非感染性の可溶性モノマー形および[*PIN*⁺]と呼ばれる不溶性のアミロイド状凝集形として存在する。不溶性の凝集形は優性であり、細胞質を介して細胞間に伝搬する。**Rnq1 タンパク質**は別のプリオンである[*PSI*⁺]を *de novo* で誘発する。分子シャペロン Hsp104 はポリグルタミンの凝集体形成に、およびプリオン表現形の維持に重要である。すでに存在する凝集体がシャペロン依存性の酵母プリオンの発達に必要な (文献 3)。

データリンク： UniProt [P25367](#), SGD [RNQ1/YCL028W](#)

関連製品： [#62-300](#) anti-Sup35/PS+ (*S. cerevisiae*) antibody [#62-302](#) anti-Cdc37 (*S. cerevisiae*) antibody

文献： この抗体は下記の論文で用いられている。

- Kimura Y *et al* "The role of pre-existing aggregates in Hsp104-dependent polyglutamine aggregate formation and epigenetic change of yeast prions." *Genes to Cells* **9**: 685-696 (2004) PMID: [15298677](#)

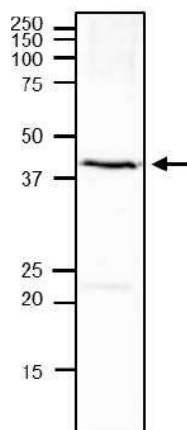


図. 出芽酵母粗抽出液中の Rnq1 タンパク質のウェスタンブロット.
S. cerevisiae strain BY4741 粗抽出液 (35 µg) をウェスタンブロットで解析した。抗体は 1/1,000 希釈で用いた。Rnq1 タンパク質の分子質量は 42.6 kDa である。